

職員回覧板

震災号外編

No.16

2011.4.6 上伊那医療生活協同組合

第4次支援隊帰任報告

(3/29～4/2)

第4次支援隊が（山崎事務長・松田・千賀両看護師さん）が2日夜20時半頃帰任されました。現地での支援活動大変お疲れさまでした。心身ともに大層お疲れだったろうと推察しますが、早速に詳細な支援報告を寄せて下さいました。報告文と写真の一部を掲載させていただきます。（報告文全文は、ニュース裏面に順次掲載の予定です。写真は文書箱→写真→2011年度を参照）



第4次支援隊の活動した場所は①松島海岸診療所とその周辺、②（そこから）10km離れた津波被害が大きい鳴瀬地区。

今までの坂総合病院を中心とする支援から、坂病院・長町病院・松島海岸診療所の3か所を拠点とする方針となり、松島海岸診療所を拠点とする活動を立ち上げるところだった。（←左 松島海岸診療所）

松島海岸診療所の周辺の状況……

名勝地松島にあり、海岸や瑞巖寺まで徒歩2分。松島町の死者は1名、行方不明31名。津波は床上数十cm。海岸に面した土産物店のガラスは割れ、床上まで泥が10cmくらい溜まり、泥出し作業が家族やボランティアによって行われた。家財道具の相当量はダメになり、家の前に出されており、滞在中も毎日ダンプにより回収されていた。近隣の海岸線に比べて被害が少ないのは、数十の島々に守られたからであろう。

周辺の組合員さん宅訪問（松田・千賀看護師さん）

30日は8時半の朝会後、各地から送られてきた物資のダンボールを大人用、子供用、赤ちゃん用衣類、タオル類、カイロ、水などに分類作業（支援物資は送る方が性別、種類、子供服は年齢別…等々わかりやすく分類し、しっかりしたダンボール箱等に梱包し、内容を記載して届けたほうが良い。）、午後は地域ごとに地元の組合役員さんの付添で歩いて訪問。組合員さんが一緒なので、たいがいの方は特に躊躇無く話をしてくれた。被害の状況や、今の家族の所在、健康状態、困っている事、足りないものなど状況に応じながら聞いていった。中には水が1週間引けなかったという地域もあり、水も出なかつたためか片付けができず、ようやく数日前から家の中の泥出しや使えなくなった家財道具を出している家あり。復旧作業に入っている土産物店も数件あるが、7～8割は作業もされず、そのまま放置。

4月1日は東松島市の組合員さん宅で自宅に帰られている方を中心に回る。あたり一面瓦礫の山…というような地域。

「嫁が流されて亡くなった。母は認知症で施設にいる。子供服に困っている……。」というお宅に次の訪問機会があり、子供服とおもちゃを届けた。おもちゃに飛びついてきた子供の笑顔は印象に残る。（事務長）（→右写真）



（←88歳小野寺さん）

一人暮らし。床上50cm以上の浸水。近所の人に言われて裏の山に登って助かった。兄弟を亡くした。隣の家の60過ぎの男性はいつも自分のことを気にかけてくれたが、昆布を取りに行ったり戻ってこないこと。……とても元気で、こちらも元気になる。いっぱい話してくれたが、4割くらいは方言で判らない！

鳴瀬地区の状況……

診療所から東へ10kmほど。宮城最大の被災地石巻市との中間にあたる。東松島市は、死者800名、と石巻市に次ぐ。ここにあった生協の『なるせの郷』では、デイサービスの職員3名と利用者11名が死亡、1名行方不明。隣接している体育館が避難所になっていたが、ここへの避難者の大勢が流されたという。海から3km以上は離れていると思われるが、その間の家の多くが全壊している。360度見渡す限りの廃墟が数km続く地域もある。自衛隊による捜索が各所で行われているが、まだまだ手がついていない所が多い。



（第4次支援隊現地報告 次号に続く）（山崎事務長の報告は裏面に全文掲載しております。）

東日本大震災対策本部会議（第2回）

5日夕対策本部会議が開かれ下記事項が決定しました。

- ① 全職員が**1労働日分の賃金相当額**（今までのカンパ分に上乗せ）を**カンパする運動**に取り組む。
- ② 全日本の方針に沿って、年齢制限を設けないで、支援を継続する。個々の人選については管理が面接し、判断をする。
- ③ 4/14～17（深夜帰宅）で3人派遣するので進んで立候補を！！（今のところ2人手あげがされている。）

※ 支援隊報告集会（3/25）の続編は次号以降に掲載する予定です。

活動した場所

①松島海岸診療所とその周辺、②10キロ離れた津波被害が大きい鳴瀬地区

今までの坂総合病院を中心とする支援から、坂病院・長町病院・松島海岸診療所の3か所を拠点とする方針となり、松島海岸診療所を拠点とする活動を立ち上げるところであった。

松島海岸診療所周辺の状況

名勝地松島にある。海岸や瑞巖寺まで徒歩2分。

松島町の死亡者は1名、行方不明31名。津波は床上数十cm。海岸に面した土産物店のガラスは割れ、床上まで泥が10cmくらい溜まり、泥出し作業が家族やボランティアによって行われた。家財道具の相当量はダメになり、家の前に出されており、滞在中も毎日ダンプにより回収されていた。近隣の海岸線に比べて被害が少ないので、数十の島々に守られたからであろう。

鳴瀬地区の状況

診療所から東へ10キロほど。宮城最大の被災地石巻市との中間にあたる。東松島市は死者800名、行方不明名と石巻市に次ぐ。ここにあった生協のなるせの郷ではデイサービスの職員3名と利用者11名が死亡、1名行方不明。隣接している体育館が避難所になっていたが、ここへの避難者の大勢が流されたという。海から3キロ以上は離れていると思われるが、その間の家の多くが全壊している。360度見渡す限りの廃墟が数キロ続く地域もある。自衛隊による搜索が各所で行われているが、まだまだ手がついていない所が多い。

私たちの行った活動

①診療所周辺の組合員さん訪問（松田・千賀）

理事の方と訪問。理事さんは組合員の様子を良く知っており、また近所のつながりが強いことを感じたと言う。助け合って暮らしている。くすりに困っている人多かった。

②鳴瀬地区的組合員さん訪問（松田・千賀・山崎）

被害著しく全壊の地域より数百メートル内陸に入った地域。建物の損壊は瓦屋根が落ちている程度だが、津波は高い所で床上1メートル。泥が入り込み廃棄する家財が道路に積み上げられている。同じ新興住宅街の中でも敷地が高かったり、土台が高い家は床下浸水で済んだ家もあった。

- ・近くの医院が休業となり血圧の薬がひとつとなったので、今朝は飲まなかった。遠くの病院に隣の一人暮らしの人とタクシーで行こうと思うけど。息子は教員で長いこと帰ってこない。ガソリンが入手難なので。
- ・嫁が流されて亡くなった。母は認知症で施設にいる。子供服に困っている。・・・次の訪問機会があり、子供服とおもちゃを届けた。おもちゃに飛びついてきた子供の笑顔は印象に残る。
- ・母が歯医者に行きたいが我慢している。車2台ダメになった。
- ・88歳小野寺さん、ひとり暮らし。床上50センチ以上の浸水。近所の人に言われて裏の山に登って助かった。兄弟を亡くした。隣の男性も流されたのではないか。・・・とても元気で、こちらも元気になる。いっぱい話してくれたが、4割くらいは方言で判らない！
- ・自宅出て避難していたところ、津波が近くまで來たので最寄りの家の2階にあがり助かった。夫は入院中。石巻日赤から仙台日赤に移された。ひとりで片づけている。休日には娘が手伝いにくる。ボランティアセンターに連絡すれば手伝いが入ることを勧めたが、「ぼちぼちやるから」自宅の車も20メートルくらい流され、遠くから大きなコンテナが流ってきたが、自宅目前でとまり損壊を免れた。
- ・ウチのこの前の前のがれきにも、人がいるんじゃない（埋まって）と気になる。

◎私たちの訪問がどれだけの役に立っているのか、と悩む所である。湿布や軍手・服をお渡しすることしかできない。様子を聞いて、薬が無いと聞いても、生協の診療所は10キロ離れていて、生協の送迎も金曜日だけ。どう支援をしていくのか・・・今回の訪問が第一歩となり、今後も継続する中で方針もでてくるのだろうと理解しておきます。

③鳴瀬地区的避難所入所者の名簿入手（山崎）

組合員の安否確認のための作業。5か所を回り、30名ほどの集会所から200名規模の住民センターなど。避難所生活で苦労されている様子がうかがわれた。今後この名簿を役員さんが見て組合員さんを確認していくことになるのだろう。

④組合員さん宅・職員宅の泥出し作業（山崎）

2軒の作業をしたが、ヘドロは重く1軒では6人で推定4トンほどを運んだ。家族だけでは無理な家庭も多いだろう。多くのボランティアや公的補助が必要だと感じる。

帰りに石巻市を回ってきました。死者2300名。東松島と同じ光景が続いているが、人口が多く地域も広大な分、被害も大きく、避難者も大勢いるようです。

全日本医連の情報によると、今後は②鳴瀬地区を中心とした医療支援・生活支援を行っていくという。北関東地協の支援も日ごとに増え、20名を超えるくらいに。アパートが手狭ではあったが、水も2日目から出て、布団・食料も豊富にあり、当初聞かされていたより、恵まれた環境で過ごすことができた。